

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102582		
法人名	医療法人社団 稲葉会		
事業所名	芥見グループホーム		
所在地	岐阜県岐阜市岩田東3丁目277-1		
自己評価作成日	平成24年8月27日	評価結果市町村受理日	平成24年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年9月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・平屋造りの2ユニットを渡り廊下でつなぎ、それぞれの棟に玄関を設け独自性と協力体制が保たれています</li> <li>・母体の芥見診療所は多くの診療科目と入院病床を持っており医療のバックアップ体制が整っています</li> <li>・デイサービス利用希望者は診療所に併設のデイサービスを週2回利用し、入居前からの馴染みの関係の維持や、気分転換を図っています</li> <li>・食材は生活協同組合コープから仕入れ、美味しい食事を提供できるように努力しています</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体が医療系であることから、医療・看護のバックアップ体制が充実し、家族からは、安心と信頼を得ている。地域との交流を積極的に行い、ホームの行事には、大勢の地域住民を招き、交流の場として開放している。利用者へは、暮らしの中で、食べる事へのこだわりを大切に、毎日の食事が楽しくなるよう、美味しいものを吟味して提供している。管理者・職員は、利用者を家族と共に支えられるよう、家族とは、細かく連携を取りながら、利用者の笑顔を引き出し、喜びと安心のある生活を支援をしている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位とし、優しい心を持って、いつも笑顔で過ごして頂けるサービス提供を心掛けると共に地域に密着したホーム作りに努めています。	管理者と職員は、職員会議での申し合わせだけでなく日々の業務で折りにふれ、理念を具体的なケアに活かせるよう、確認し合っている。利用者の笑顔を引き出し、住み慣れた地域で、安心して暮らせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており地域との交流の機会を多く持てるよう行事など積極的に参加しています。また地域の方が畑を手伝ってくださったり、散歩時など日常会話の交流を深め気軽に来て頂けるよう工夫しています。	自治会に加入し、地域の敬老会や行事に参加している。公民館で行われる生け花の講習に、職員と共に通っている。ホームの畑仕事を住民が手伝い、夏祭りの屋台を家族が手伝うなど、ホームが地域交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学又は予約の問い合わせの際、独居生活の方や日常生活が少々困難になっている方々、家族に介護を要する高齢者が見える方々等の相談や話し合いを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動報告をし、家族様の意見を取り入れながらサービス向上に努めています。またホーム内での行事等、家族様、地域包括支援センター東部の職員、地域の方々へ参加を呼び掛け、交流を深めながら情報収集や意見を頂きサービスに活かしています。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員や住民に加え、複数の家族が参加している。参加者から情報提供を受けたり、評価の取り組み状況について意見を交わしている。意見等は、サービスの質の向上に活かすように、取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岐阜市介護保険課へ疑問点やサービスについての相談等、常時連絡を取り合いながら助言等頂き、取り組んでいます。運営推進会議への参加も呼びかけている。	市の担当者の運営推進会議への出席が少ないので、繰り返し参加を呼びかけている。行政へは、運営上の疑問点を問合せたり、行政からは生活保護者の受け入れ等の相談を受け、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束(精神含め)への理解を職員に徹底し、会議などで必要性について話し合い拘束のないケアを心掛けています。また研修に参加し知識を深め全職員に周知徹底し意識向上を図っています。	玄関の施錠は夜間のみとして、ユニット間は、自由に行き来している。外部研修で理解を深め、拘束のないケアに努めている。安全上、拘束が必要な際でも、短時間で解除できるよう全職員に徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修で学んだ事や情報など書面を通し、虐待防止に努めています。また虐待の深い理解や把握、人権の尊重等の周知徹底をしています。		

岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加し会議等において職員に情報提供し話し合いの場を設けている。また、地域権利擁護事業や他事業所との会議などで情報収集しNPO法人の身元保証制度を利用し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、利用者様、家族様に詳しく説明をし疑問等に関し十分な説明、対応をすることで御理解を頂き同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時、又は電話やEメール等でこまめに連絡を取り話しやすい環境、雰囲気作りを心掛けています。また、苦情窓口及び担当職員を明確にし、玄関に掲示してあります。苦情が寄せられた場合は迅速な対応が行えるよう努めています。	家族の来訪時、利用者に関する情報を伝え、意見等を話し合っている。家族からは、利用者の歩行や足に合った履物の相談があったり、介助の方法について要望があり、それらは運営に反映している。本人・家族の意見を拾い上げるには、さらなる工夫が必要である。	家族からは、意見や不満が言い出し、難しいことを理解し、さらに、職員から積極的に聴く努力や場面づくりに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員間での意見交換を密に行い話しやすい環境作りを心掛けています。意見や提案がある場合は随時報告があり話し合いが必要な場合は会議等で検討し個々の意見や思いを尊重しています。	毎月の職員会議で、職員の意見を聞く機会を設けている。内容によっては、即、ケア等に取り入れられている。職員は、日々のケアの気づきや利用者の新しい発見などを管理者に伝え、速やかに運営に反映できる仕組みを取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の事情を配慮し働きやすい労働時間(残業時間を減らすこと、体が休められるようなシフトを作成)となるように工夫しています。また得意な事柄をのばし、苦手な事柄を学べるように職場環境を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の立場や必要性に応じて各種の研修に積極的に参加し、会議や書面等で他職員への伝達、知識の共有を行い質の向上に努めています。また、OJTを行い各職員間でトレーニングできるように工夫し資料等は常時確認できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や東部ケア会議等に参加し、情報収集や意見交換を行っています。また他事業所へ利用者様の紹介や訪問し交流を深めることで関係作りに努めています。研修先においても、意見交換等積極的に行い質の向上に繋げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予約者様の事前面接時、様々な要望を聞き、信頼関係を得られるよう努力しています。またホーム内を見学して頂く事でより安心感を得られるように努め、サービス開始までの間も常時相談の受け入れを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に家族様からの要望や不安等の相談を親身に受け止め安心感を与えられる対応を心掛け信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約時や、事前面接時に相談を受けその方に適したサービス内容を話し合い、より良い支援方法を検討していきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除、その他、個々の利用者様の得意分野とする事を皆で学び、共存し合う事で一体化を図り、常に感謝の気持ちや敬意を忘れず、支えあいながら生活できる関係作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気分低下気味の方、ホームの生活に慣れない方はなるべく家族様等に面会をお願いし安心できるよう協力をしていただいています。又、行事等、参加を呼びかけ家族様との絆を大切に、維持向上に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの場所は可能な限り付き添い、地域行事の参加など関係の維持に努めています。利用者様の知人を始め馴染みの深い方々がこまめに面会に来て下さる事や、外出、外泊の機会が持てるよう家族の方に協力して頂き馴染みの人との交流を行っています。	知人を始め、馴染みの人が小まめに面会に来ている。併設のデイサービスでは、懐かしい旧友に出会っている。馴染みの店で買い物、外泊等を家族と協力して、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いのできる事、できない事を利用者同士が助け合いながら生活しています。また日頃より築いた信頼関係があり共に楽しみ支え合う事で孤立を防ぎ、笑顔ある生活に繋がっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族様、他施設からの相談に応じ、その都度、対応しながら、お付き合いを大切にしています。退居後のホームへの訪問等言葉かけを行い、馴染みや信頼関係の維持に努めています。また、家族様より入居希望者の紹介もあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅での生活スタイルや、利用者様の個々に合った暮らし方になるべく添えるような生活の確保に努めています。また、その都度本人が意思決定できるように努め心情を汲み取る事のできるように心掛けています。	日常の会話や表情、仕草などから、その人の意向や思いを汲み取っている。把握した思いは、職員間で共有し、本人の希望した生活が継続できるよう、努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報や、本人様とのコミュニケーションを通し、得た情報等の記録を参考に全職員が共有し生活歴等の把握に努め、サービス提供を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に毎日の生活を記録に残し、全職員が日々の状態を把握する事で適した対応、サービス提供が行えるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い生活を送ることが出来るように本人様、家族様の思いや希望を含めて話し合いを行い、サービス計画書を作成しています。精神、身体状況の変化に応じその都度話し合いをしながら見直しを行っています。	担当職員が日々、気づいた点を拾い上げ、本人・家族の希望を介護計画に反映させている。職員会議で、モニタリングを繰り返し、より良い生活が送れるように、柔軟に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個々のケアプラン経過記録、生活記録などを記入し職員間で情報を共有する事で状態把握に努めています。また、記録を参考にすると共に、会議で話し合いの場を設け、介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様の希望に応じて、外出、買物、受診などの支援をしています。また、気分低下等見られる時は外出や散歩等に出掛け気分転換を図りながら日々寄り添える支援を心掛けています。		

岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を深める為、校下内で行われる催し(コンサート・みこしの見学)などに参加したり、近所の商店への買物、喫茶店利用も行っています。また、ホームの近所を散歩し近所の方とのふれあいを持っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医や、専門医など利用者様、家族様の希望される医療を受けられるよう支援しています。また、必要性に応じて往診なども行っています。	かかりつけ医は、自由に選択してもらっているが、ほぼ全員が、協力医の往診を受けている。受診は、職員が同行している。歯科は往診があり、整形外科や皮膚科への受診は家族が付き添い、状況によって、職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用している医療機関の看護師と常時連絡を取り利用者様の状態を報告、相談し健康管理をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	常時、主治医、看護職員との情報を密にし、本人様、家族様が安心していただけるような対応を心掛けています。また、入退院の際には情報提供を電話や書類で行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様や家族様に重度化や終末期について十分な説明、話し合いの機会を設け理解して頂いています。	重度化・終末期に関しては、ホームでの介助が可能な範囲までを限界としている。かかりつけ医の判断と指示のもとで、段階的に家族と話し合い、方針を共有している。自然な看取りの指針はできており、医療・介護の連携を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDが設置してあり、使用方法の勉強会を行っています。また、避難訓練を年2回行い、その際にも救急の対応を消防署の方に来て頂いて、会議や勉強会など行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定し全員参加にて日中、夜間それぞれ訓練を行っています。また、マニュアル作成、物品などの準備をし災害に備えています。次回、地震、水害時等の訓練を予定しています。	前回の改善課題であった「地震水害のマニュアル」を整えている。マニュアルに基づき、日中と夜間の避難誘導訓練を実施している。備蓄を整え、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念である利用者様本位を常に心掛け、その場に合った声かけ、対応を行いプライバシーの確保や、ひとりひとりの人格の尊重に配慮しています。	利用者へは、下からの目線で話しかけ、小声でトイレへ誘導するなど、自尊心を損なわないような配慮をしている。言葉づかいでは、命令口調にならないように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面において利用者様の希望が尊重できるように配慮しています。また思いが伝えられるような信頼関係を気付けるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、自分らしく過ごして頂けるよう支援し、本人の思いを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選び等の自己決定ができるように働きかけています。常にその人らしさを考え身だしなみやおしゃれに関し支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様、一人ひとりの嗜好を取り入れながら、できる事を分担し、一緒に準備や片付けをして頂いています。又、ホームの畑で育てた野菜と一緒に収穫、調理しながら楽しい食事ができるよう努めています。	一人ひとりの好みを把握し、食事づくりをしている。盛り付けや下膳など、出来ることをやってもらっている。おやつ作りでは、利用者の能力を発揮してもらい、ホットケーキやおはぎなどを、利用者と共に楽しみながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事チェック表に記入し、食事量が少ない場合は補食にて対応し、体調の変化に合わせて、臨機応変に対応しています。水分補給は時間を決めて行っていますが、随時お茶や水が飲めるよう準備してあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、なるべく自分で行うよう促し、できないところは援助しています。又義歯など毎晩消毒するよう援助や、舌用のスポンジ、を使用し口腔ケアを行っています。		



岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握したり、様子観察にてトイレ誘導声掛けを行っています。できる限りトイレでの排泄を促し、自立に向けた排泄の支援を行っています。	職員のコマメな誘導や声がけにより、排泄自立度を維持している。日中は、布パンツで快適に過ごし、夜間のみ紙パンツを使用し、本人の体調と睡眠を考慮し、個別の排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で自然に体を動かす事ができるよう働きかけています。食事のメニューには食物繊維、乳製品等を使用したり水分補給を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、回数は決まっていますが利用者様の体調、衛生状態等に合わせいつでも入浴して頂いています。又、時間など制限せずくつろいで入浴ができるよう努めています。	入浴は週2回としている。利用者の希望により、毎日の入浴も可能である。職員の送迎により、同法人のデイサービスの入浴場も利用している。菖蒲湯やゆず湯、アロエ湯など様々な工夫を行い、ホッとすると季節感を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターン、生活習慣を把握し、良い睡眠がとれるよう日常生活の過ごし方、環境を整えるよう支援しています。また、様子観察を十分にを行い状況に応じ休息できるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋綴りを用い、全職員がいつでも確認できるようにしています。状態の変化がある場合はその都度、主治医に報告し指示を受けています。誤薬飲み忘れを防ぐ為、常時職員2人にて確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの楽しみや趣味役割を見付けその人らしい生活が送れるよう支援しています。また、季節の行事等を行い季節感を味わって頂けるような計画を実行しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に1～2回程度、買物や散歩、喫茶店などに出かけられるよう支援しています。その日の希望に添って外出できない時もあり、そのような場合には日にちを決めて外出できるようにしています。また、家族様の協力も得て外出を楽しんでいます。	食べたい物などの買い物や、喫茶店などの希望に柔軟に応じている。外食時には、利用者同士、互いにいたわり合いながら、出かけている。花見や苺狩り、あじさい鑑賞など四季折々の外出も行っている。	



岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方は、ホームで管理していますが、現金を所持せず不安を感じる方に対しては家族様と相談して本人様管理をして頂いています。買物では一緒に支払いを行い、安心される現金管理に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、都度連絡する援助を行っています。電話の際は、職員は席を外し、ゆっくりと話をして頂ける空間作りに配慮しています。また、自身の携帯電話の利用や、手紙の代筆支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室にはソファーにてくつろげるスペースを設け、観葉植物や季節の花、花壇の花を飾り、季節感を味わって頂きながら、心地よく過ごしやすい空間作りを行っています。又、各棟を自由に往来できる様な雰囲気作りも行っています。	共用の場所には、ゆったり寛げるソファーを置いている。空間の要所には、観葉植物や生け花を飾り、調度品は、懐かしい物、扱いやすいものを置いている。季節感や生活感があり、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室のテーブル席は気の合う利用者様同士が近隣の席で座れるよう配慮しており、会話やレクリエーションを楽しんだり雑誌や新聞を見たり等思い思いに過ごせるような環境作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用してみえる方や、家族様や昔の写真を飾ってみえる方、趣味の物(花や作品)を置いてみえる方、暖簾をかけ他の部屋との区別がすぐにでき、本人らしい個々の空間の中で過ごして頂けるよう工夫しています。	使い慣れた調度品や家具を持ち込んでもらい、家族と共に配置し、個性ある居室となっている。個々に特徴ある暖簾で、自分の部屋を見分けることができるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の無いよう家具の配置を工夫し身体状況に応じ手すりを設置しています。また、トイレの位置や個々の居室の位置も分かりやすくし、安心して生活が送れるように努めています。		